

令和7年度 第2回協働推進審査会 議事の概要

○日 時：令和7年10月17日（金）14:00～

○場 所：ホテルリガーレ春日野 1階 天平の間

○出席委員：中川委員、渡辺委員、林委員、西田委員

○事務局：染川課長、鈴木課長補佐、岩下係長、草壁主事、小西主事、吉田職員

1. 審査会委員及び県側出席者の紹介、配布資料の確認【県民くらし課岩下係長】14:00～

2. 開会挨拶【県民くらし課染川課長】14:05～

3. 議題

(1) 奈良県協働推進指針改定案について

○奈良県協働推進指針改正（案）全文【資料1】

○（6/6 時点）奈良県協働推進指針改正（案）全文【資料2】

○奈良県協働推進指針 変更一覧【資料3】

○奈良県協働推進指針全文【資料4】

○県民向け周知チラシ【資料5】

【渡辺委員】「奈良防災プラットフォーム連絡会」には災害救援組織として災害救援ひのきしん隊が位置づけられており、地域で活躍する団体の概要図にも宗教団体を掲げても支障はないのではないのでしょうか。

【林委員】労働者協同組合について、地域で活躍する団体の概要図には含まれていますが、主なNPO・ボランティア団体の図には記載がありません。こちらの表にも反映するのがよいのではないのでしょうか。

【西田委員】災害発生時に実際に活動できる団体は、たとえば「ひのきしん隊」など限られています。そのため、地域で活躍する団体の概要図においても、固有名詞で具体的に示すという方法も考えられます。

また、渡辺先生のご提案にある神社仏閣については、確かに最近は防災訓練等の取り組みも増えていますが、一方で現場の僧侶の方々が防災を「自分事」として捉えていない状況も一部に見られます。

【中川委員】したがって、「宗教施設一般」を対象とするのではなく、奈良防災プラットフォーム連絡会など防災ネットワークに実際に参加している宗教施設を対象とするのが現実的だと思います。

どの範囲まで記載するか最終判断については、事務局に一任します。

【県】全体のバランスを考慮しつつ、再度検討します。

【中川委員】ある団体から「参画協働」という表現の使い方について意見があり、県からも相談を受けました。

「県内のいくつかの自治体では、まちづくり条例や地域運営のしくみづくりが進み、その中心には『参画と協働』の考え方があります。」の部分について、「文脈からみると『参画と協働』もしくは『参加と協働』のほうが望ましいのではないか」というものでした。

しかし、これは言葉尻の議論にすぎず、そのような議論はすでに十数年前に整理されています。したがって、県の基本方針を今あらためて一から議論する必要はないと考えます。

【渡辺委員】チラシの赤い面にある「協働マッチング」についてですが、3項目がすべてポジティブな表現であるのに対し、1項目だけややネガティブな印象を与える表現になっています。統一感を持たせるためにも、より前向きな表現に修正していただければと思います。

(2)今後の予定について

○年間スケジュール【資料6】

委員からの意見なし。